防災だより　平成３０年１月号

平成３０年　１月１９日発行
愛知県立岡崎北高等学校
総務部編集

☆今回のテーマ　東日本大震災

東日本大震災からもうすぐ７年になります。被災地では、現在も家に帰ることを許されず避難生活を続けている人たちがいます。身近な人を失った苦しみは依然として失せず、また、未だに行方不明者の捜索が続いています。未曾有の大惨事も、被災地から離れて暮らす私たちの記憶は日に日に薄れていくのではないでしょうか。皆さんが当時の被災状況や得られた教訓を知ることは、地震大国である日本にとって大切なことだと思います。これを機に東日本大震災について再確認しましょう。

発生日時：2011 年（平成 23 年）３月 11 日 午後２時４６分
震源　　：宮城県牡鹿半島の東南東沖 130km、仙台市の東方沖 70km の太平洋の海底
規模　　：マグニチュード 9.0 で、発生時点において日本周辺における観測史上最大の地震
震度　　：最大震度は宮城県栗原市で観測された震度 7、宮城・福島・茨城・栃木の 4 県 36 市町村と仙台市内の 1 区で震度 6 強
死傷者　：死者 15,894 名、行方不明者 2,561 名、負傷者 6,152 人（2016 年 3 月 1 日現在）
被害状況：・場所によっては波高 10m 以上、最大遡上高 40.1m にも上る巨大な津波が発生
・地震の揺れや液状化現象、地盤沈下、ダムの決壊などによる、各種インフラの寸断
・建築物の全壊・半壊は合わせて 400,326 戸
・震災発生直後のピーク時の避難者は 40 万人以上、停電世帯は 800 万戸以上、断水世帯は 180 万戸以上
・被害額は 16 兆円から 25 兆円（日本政府試算）
・東京電力福島第一原子力発電所事故の発生（大量の放射性物質の漏洩を伴う重大な原子力事故に発展）→同原発の立地する福島県浜通り地方を中心に、周辺一帯の福島県住民の避難は長期化するとともに、2012 年からは「帰還困難区域」「居住制限区域」を設定
・被災後の疲れやストレスによる震災関連死の問題　　（以上　参考ウィキペディア）

被災者の声　（ＮＨＫ　東日本大震災５年　被災者 1000 人アンケートより）

【復興について】５年経てば仮設から出る人も多く、復興していると思っていました。現状は、まだまだ仮設住宅から出られない人が多いです。まず住宅地の整備が必要な中、オリンピックは早かったのではないかと。オリンピックも大事ですが、資材や建設に関わる人材がいないのはオリンピックのせいだと思ってしまいます。（岩手県山田町・３０代・女性）

【転居について】震災以降、避難先として親族や知人の家などを転々、５ヶ所目がいまの仮設住宅です。震災から１年も経てば自宅に戻れると思っていましたが、いまだに仮設住宅での暮らしが続いています。母は９４歳、いまも自宅に帰りたい帰りたいと言い続けています。普通の生活がどれほど幸せなことだったのかと思います。（福島県南相馬市・６０代・女性）

【心身への影響について】ふる里を離れる人が多いのがつらいです。１０歳若ければ、あきらめて前だけ見られるでしょうが、自分は家を立て直しこの地で暮らすつもりでしたので、切り替えが大変で、心の復興はまだまだです。生後１カ月の時に避難中に車ごと流された孫の成長が、支えになっています。　　（宮城県仙台市・７０代・我妻勝さん）